

# 令和7年度 大学院自然科学研究科進学意向アンケート (博士前期課程1年次対象)

## I アンケート調査の概要

### (1) 調査の目的

博士前期課程1年次学生の進路にかかわる意向調査で大学生活において、充実した進路キャリア形成の機会を作ることを目的として実施

### (2) 実施期間

令和7年4月4日(金)～4月11日(金)

### (3) 実施方法

調査対象：令和7年度博士前期課程1年次生(令和7年4月入学者)

調査方法：新入生ガイダンス(オンライン実施)においてアンケートを依頼。

回答は、Microsoft Formsにより得た。

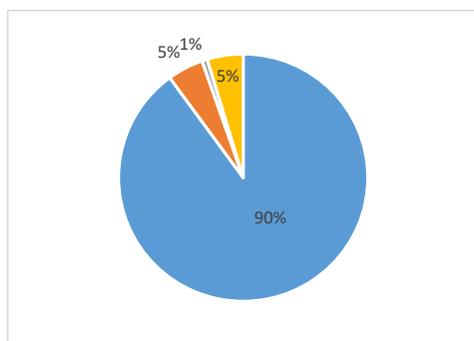
### (4) 回答状況

対象者数 568名 , うち 回答者数 429名 (回答率 75.5%)

## II アンケートの集計結果

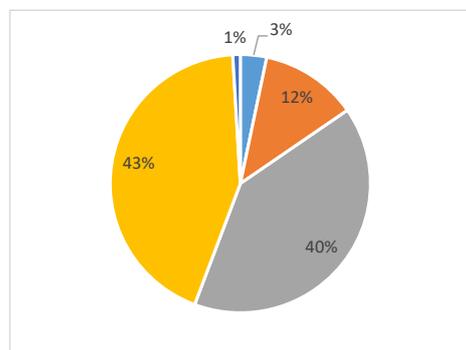
設問1 進路検討：現時点で予定をしている博士前期課程修了後の進路について教えてください。【4者択1】（必須）

1 就職をしたい	386
2 新潟大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい	20
3 他大学大学院の博士後期課程へ進学をしたい	3
4 未定である	20



設問2 進路検討の意思決定の度合い：設問1の博士前期課程修了後の進路について、意思決定の度合いを教えてください。【5者択1】（必須）

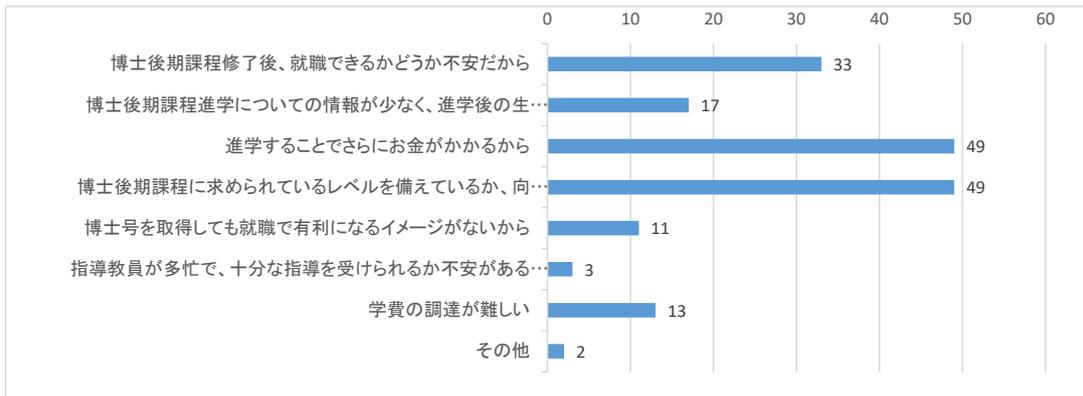
1 とても迷っている	14
2 迷っている	52
3 あまり迷っていない	173
4 まったく迷っていない	186
5 まだ、考えたことがない	4



設問 3

博士後期課程進学の見直し：設問2の質問で「1. とても迷っている」または「2. 迷っている」と回答した方にお伺いします。博士後期課程への進学について、迷っている理由を教えてください。【8者択8】

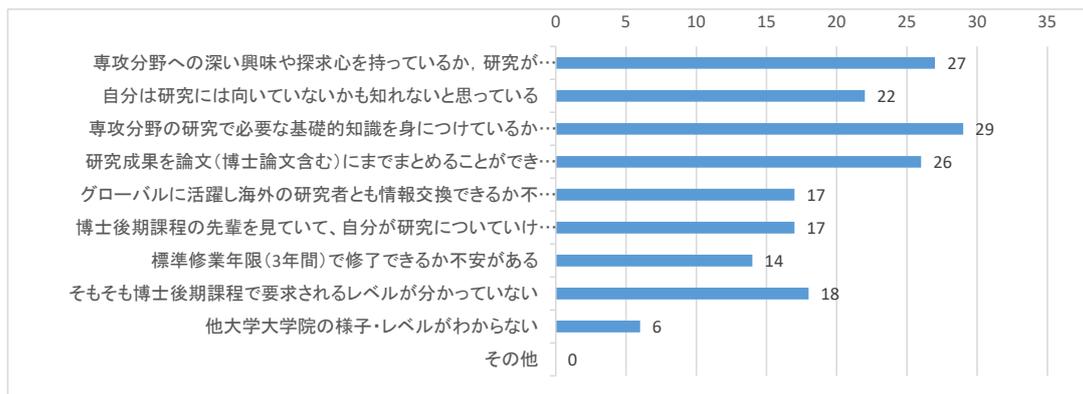
- |   |    |
|---|----|
| 1 博士後期課程修了後、就職できるかどうか不安だから              | 33 |
| 2 博士後期課程進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできないから | 17 |
| 3 進学することでさらにお金がかかるから                    | 49 |
| 4 博士後期課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから | 49 |
| 5 博士号を取得しても就職で有利になるイメージがないから            | 11 |
| 6 指導教員が多忙で、十分な指導を受けられるか不安があるから          | 3  |
| 7 学費の調達が難しい                             | 13 |
| 8 その他                                   | 2  |
- (進学すべきか迷っているから;単純に迷っている)



設問 4

進学に対する不安内容：設問3で「4.博士後期課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから。」に回答した方にお伺いします。不安である理由としてはどのようなものが考えられますか。【10者択10】

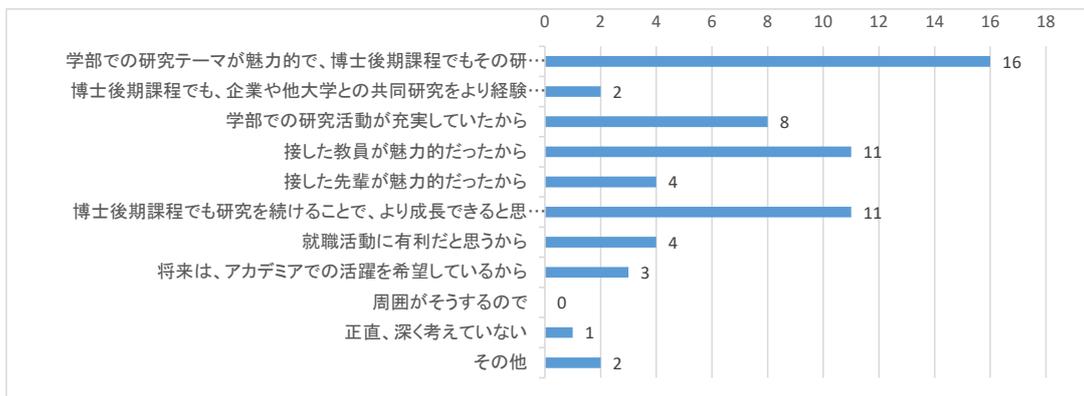
- |  |    |
|--|----|
| 1 専攻分野への深い興味や探求心を持っているか、研究が本当に好きかどうか现阶段では自分でも分からない | 27 |
| 2 自分は研究には向いていないかも知れないと思っている                        | 22 |
| 3 専攻分野の研究に必要な基礎的知識を身につけているか不安がある                   | 29 |
| 4 研究成果を論文(博士論文含む)にまでまとめることができるか不安                  | 26 |
| 5 グローバルに活躍し海外の研究者とも情報交換できるか不安(語学力)                 | 17 |
| 6 博士後期課程の先輩を見ていて、自分が研究についていけるか不安がある                | 17 |
| 7 標準修業年限(3年間)で修了できるか不安がある                          | 14 |
| 8 そもそも博士後期課程で要求されるレベルが分かっていない                      | 18 |
| 9 他大学大学院の様子・レベルがわからない                              | 6  |
| 10 その他   | 0  |



博士後期課程進学を検討：設問1の博士前期課程修了後の進路について、「1.新潟大学大学院の博士後期課程へ進学したい。」と回答した方へお伺いします。本学の博士後期課程への進学を検討することに影響のある観点を選択してください。（推奨3点選択） 【11者択3】

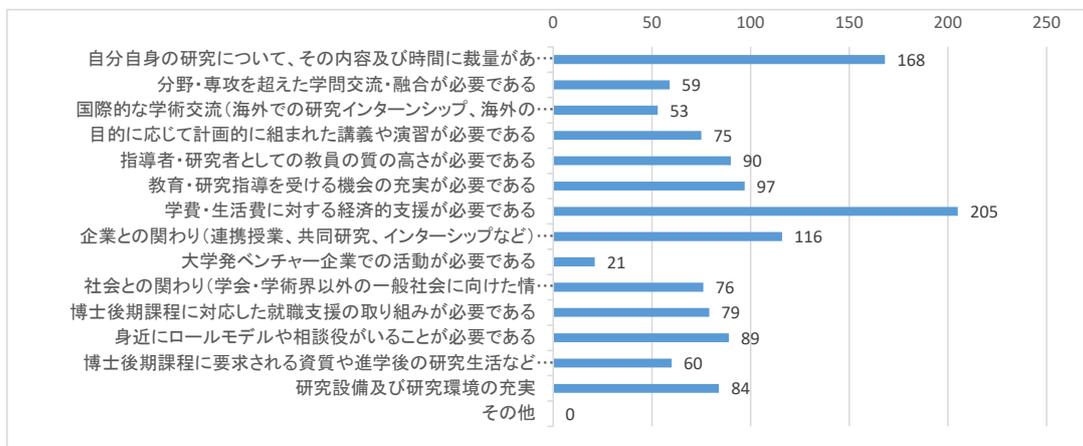
- |                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 1 学部での研究テーマが魅力的で、博士後期課程でもその研究を継続したいから | 16 |
| 2 博士後期課程でも、企業や他大学との共同研究をより経験したいから     | 2  |
| 3 学部での研究活動が充実していたから                   | 8  |
| 4 接した教員が魅力的だったから                      | 11 |
| 5 接した先輩が魅力的だったから                      | 4  |
| 6 博士後期課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから      | 11 |
| 7 就職活動に有利だと思うから                       | 4  |
| 8 将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから              | 3  |
| 9 周囲がそうするので                           | 0  |
| 10 正直、深く考えていない                        | 1  |
| 11 その他                                | 2  |

（入学金が不要になると話を聞いたから：博物館学芸員として働くことを希望しているから）



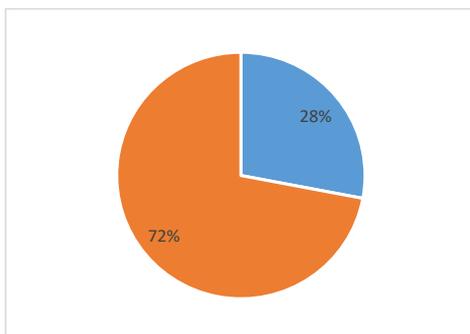
博士後期課程進学率改善への取組み：新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程が今よりさらに魅力的になり、進学を前向きに検討するためには、どのような活動や研究の舞台、仕組みが充実するべきだと思いますか。【15者択15】(必須)

1 自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること	168
2 分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である	59
3 国際的な学術交流（海外での研究インターンシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など）が必要である	53
4 目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である	75
5 指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である	90
6 教育・研究指導を受ける機会の充実が必要である	97
7 学費・生活費に対する経済的支援が必要である	205
8 企業との関わり（連携授業、共同研究、インターンシップなど）が必要である	116
9 大学発ベンチャー企業での活動が必要である	21
10 社会との関わり（学会・学術界以外の一般社会に向けた情報）が必要である	76
11 博士後期課程に対応した就職支援の取組みが必要である	79
12 身近にロールモデルや相談役がいることが必要である	89
13 博士後期課程に要求される資質や進学後の研究生活などについての情報が必要である	60
14 研究設備及び研究環境の充実	84
15 その他	0



設問7 支援金制度についての理解：博士後期課程進学を支援する返還不要の支援金制度（学振DC， 新次世代事業：いずれも年間200万円程度支給）があることは知っていましたか？【2者択1】(必須)

1 知っている。	120
2 知らなかった。	309



設問8 支援金制度の利用意向：設問7の支援金制度があれば、博士進学を検討する材料にはなりますか？【4者択1】（必須）

1	金銭的問題で博士後期課程進学をあきらめていたが、この制度を利用して進学を検討したい	47
2	支援金制度は知らなかったが、当初から進学するつもり。できれば制度を利用しようと思う	15
3	支援金制度とは関係なく、当初から進学するつもり。制度を利用することはない	21
4	支援金制度とは関係なく、進学するつもりはない	346

